

言葉の伝わり方、誹謗中傷について考えたこと

柳沢小学校六年

誹謗中傷・アンチという言葉をよく目にする。

私がよく見る動画サイトでも、“アンチによる誹謗中傷”がテーマに挙げられた動画が作成されている。私にも共感できない友達のおみなどにはあり、逆に私の好みに共感しない友達もいて、人それぞれの考え方や感じ方があるのはわかっている。しかし、自分の好みに否定的な言葉は、正直いい気はしない。

日常生活でも意見が異なることはいろいろ場面である。学校での決め事やディベート授業でも、当然意見は分か様々だが、後味が悪いことは少なく、むしろすっきりする感覚がある。

他人の考えに反対するという点では変わらないのに、残る印象に違いがあるのはなぜだろうか。この夏休みに友達大人数で遊びに行く案が出ていたが、なかなか計画が決まらないう状況があった。その頃子どもが事故が多く報道されていたことから、計画を親に相談し

た。子どもだけで遊びに行くうえでの安全と責任という面で、保護者の許可を取ることを求めるお知らせ文を回すことにした。それに対して、「ただ遊ぶに行くだけに面倒」「細かい」と言われ、断る人も出た。結果、10人ほどの人数で当日を迎え、けがや事故などなく楽しむことはできた。

その時の私の心情は、何か面倒くさいのかわからなかったし、もし皆がけがや事故にあてしまった時に私がすべての責任を負うこと

は無理だから何とも言えない複雑な気持ちだった。母には放っておきなさいと言われたが、ついカツとなり、言い返した部分もあった。

「面倒」「や」「細かい」「も一つの意見であるが」「どうしたらいいんじゃない？」や「どうしてほしい」「な」と改善できるように伝えてくれたほうが気持ちがいいし、みんなで決めたという達成感も生まれると思った。もちろん私の思いに理解をし、協力してくれた友達も多くいたが、なぜかそのマイナスな言葉が印

象に残った。

賛同できないことであ、ても、その内容ではない言葉で反対されてしまうとそれは単なる悪口に聞こえ、なんとなく全てにマイナスな感情が湧くことを実体験した出来事であった。また、これらは全てLINE上のやり取りであり、"文字から感じること"にも考えさせられる出来事でもあった。

・誹謗中傷とは、悪口や根拠のないウリなどで他人を傷付けたりする行為。

・アンチとは、対象となるものを否定する人、嫌悪する人のことを指す和製英語。

・批判とは、相手の行動や意見に対して、異な、た意見を主張すること。

私の体験は、いわゆる誹謗中傷とは違うけれど、反対を表す表現だったり、その言葉で傷ついたという点では同じようになり得るのとだと思う。

誹謗中傷がインターネット上で多いのは、その気軽さや匿名性と言われている。そこま

で考えていない言葉だったとしても、受ける方には大きく影響してしまう言葉かもしれない。そんなつもりで発した言葉ではなかったかもしれないけれど、文字の受け取り方は人それぞれでわからない。だからこそ、安易に気持ちを文字に並べて発することは気を付けなければいけないと思う。

さらに、誹謗中傷が起こる背景として、社会に対するストレスや不安の解消ということがあるそうだ。否定的な意見の同調が行き

調子になってしまうことがあつてはならないが、誰しも自分の考えが正しいと思つている部分はあり、それに近いものが現れるとより確信的に正しいと思ひ込むのだろう。それゆえ、受と発している側は相手が見えていないし、受け取り方ない考えることはないのだろうと思う。そしてなんとなく同調することを得る安心感や満足感で無関係に輪が広がってしまうのだろう。

このような背景があるために、誹謗中傷を

なくすことは難しいと思う。これから私も今
よりもっとSNSを利用する環境に入っ
ていくであろうなかで、自分が傷つく可能性や相
手を傷つけてしまう可能性あるものという向
きあうか。逃げるもひとつ、戦うもひとつだ。
自分を守る方法を身につけておくことも必要
なことだと思うが、本来望むのは、遠いから
相手を否定するのではなく、遠いがあること
を当然に理解し、異なる見方を堂々と気持ち
よく意見しあえることだ。それが、お互いを

豊かにするということにつながり、そのよう
な環境がもっと自然にあればいいと思う。

そのために私は、イライラした時こそ、言
葉を選んで相手がどう受けとめるかを考えて
伝えるように気をつけていきたい。